

レールおよび道床状態を考慮した軌道保守方法の最適選択モデルの構築

三和雅史 木村寛淳 山中雅司

バラスト軌道においては、列車の繰返し通過に伴って軌道面床状態を考慮した軌道保守方法の最適選択モデルを構築したの
の不整(軌道変位)が成長するため、定期的に軌道変位を検測し、で報告する。
必要に応じて保守が行われる。また、列車の繰返し通過に伴っ

(鉄道総研報告, 2012年2月号)

てレール凹凸量の増加、道床の細粒化や土砂混入等が発生し、材料の劣化が進行する。こうした材料の劣化は、軌道(高低)変位進みの促進や軌道変位保守改善効果の低下等をもたらすため、軌道変位保守が多頻度化していくことが想定される。このような材料劣化が軌道変位保守頻度に与える影響に関しては、これまでも材料劣化を考慮した軌道変位推移モデルが提案されており、モデルの精度向上や材料保守と軌道変位保守を含めた保守計画の長期的、総合的な適正化が課題となっている。

以上のことから、効率的な軌道保守の実現を支援するために、レールおよび道

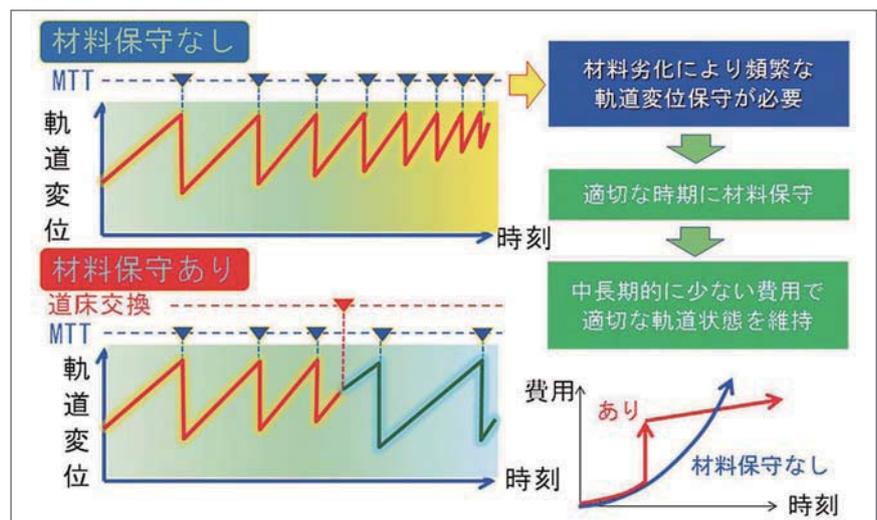


図 長期的な経済性を考慮した保守